

協会展示室の貝類標本

前回は当協会の展示室（図1）にある魚類標本について紹介しましたが、今回は貝類の標本についてあらためて整理し、標本リストを作成しましたので、内容を一部紹介します。

当協会で展示・収蔵している貝類の標本は、東京都内湾の調査で採捕された貝類のほか、漁業者の方などから寄贈された標本、スーパーで購入した貝類（図2）、土産物店で購入したものなど全部で99種ありました。当協会で購入した「新江戸前の貝図録」トピック

（No.37）では、東京都内湾で生息を確認した貝類を主体に77種を紹介していますが、このうち63種の標本が展示されています。また、貝図録に記載されていない標本は36種ありました。

標本の中には、かつて東京湾に生息していたものの現在では死殻でしか採捕されないウミタケガイ、ツキガイモドキ、オオキララガイなどもあります（図3、4）。このうちオオキララガイは関東地方の地層から化石としてみつかることが多い貝です。こ

これは、縄文時代には地球の温暖化により海面が2~3mほど上昇し、現在の東京湾よりも内陸深くまで海が入り込んでいました（縄文海進）。水生生物の生息域も内陸に拡大しましたが、その後の海面低下に伴う海岸線の後退により、それらの生物は地層に取り残されたため、当時の東京湾の姿を彷彿とさせます。化石の話については「新江戸前の貝図録」P.12~13に記載されていますのでご一読ください。



図1 展示室の貝類の標本



図2 ハマグリ類の標本

（ハマグリ以外はスーパーで購入したもの）



図3 ウミタケガイ(左)、ツキガイモドキ(右)



図4 オオキララガイ